

LoopGate 導入事例集

長崎県警察本部様

公共

オンプレミス型で29地点を接続

業務連絡、研修、各種会議などでの情報共有や意思決定まで幅広く活用！

オンプレミス

テレビ会議

研修

働き方改革



各種会議に出席するための、移動にかかる時間短縮や負担軽減による業務の合理化、遠方勤務職員の働き方見直し、自然災害発生時における警備体制の強化といった、職場環境の向上を目的として、テレビ会議システムLoopGateを導入。

セキュリティを重視し、オンプレミス型サーバを導入し閉域ネットワーク内で安定したテレビ会議を実施。

意思疎通や情報共有が改善

得られた効果として次の点が挙げられた。

- ✓ すぐに会議を始められる
- ✓ 常設されているので、緊急時にすぐに会議などを始めることができ、特に有事の即応性は何よりも大事なポイントである。
- ✓ 一斉に情報を集約、発信できる
- ✓ 災害情報など、映像や画像などを交えて一斉に情報の集約が行え、意思決定した情報の配信も同様にリアルタイムに一斉発信できる。
- ✓ 複数人でディスカッションや情報共有が可能
- ✓ 全29拠点を同時に接続できるので、各担当者が情報を発信したり、解釈の違いを訂正したりすることができる。

聖マリアンナ医科大学病院様

病院

病院内での症例検討会

CTスキャン診断画像等の画面共有

オンプレミス

テレビ会議

研修

PCアプリ

テレビ会議でのカンファレンスは病院内で実施され、会議の中ではキヤノンメディカル社製PACSで保管されたCTスキャン診断画像をはじめ様々な画像共有も行われます。LoopGate（ループゲイト）は、映像に関しては最大30コマ/秒のフルHD対応、音声に関しては音楽CDと同じ20kHzの音声帯域を採用し高画質・高音質を実現している点、また、専用機タイプならではの安定性を評価頂き、採用に至りました。

北九州市役所様

公共

区役所の窓口業務をリモート化

区役所でしか対応していなかった業務をより市民に身近な出張所でも対応

テレビ窓口

書画カメラ

Q. テレビ窓口システムを導入するに至った背景は？

出張所の機能強化です。本市では7つある区のうち4つの区に出張所があるのですが、出張所では対応していない業務があります。市民からは身近な出張所でも、対応する業務を増やしてほしいという声があがっていましたが、職員配置やシステム整備などの課題がありました。これらに対し、関係部署と改善に向けた協議を行う中で、DX推進の観点からテレビ窓口をスタートすることとしました。

市民の反応や満足度が良好。画質も鮮明。



Q. 実証実験でのテレ窓のご評価はいかがでしょう。

そうですね。評判は良いですね。使っていけるイメージをもっています。画面で一緒に書類を見ることができ、とても鮮明に映るので。書画カメラやヘッドセットなどオプションも色々試しながら使っています。専用ボタンで市民の方にも簡単に画面の切り替えをいただけますし、操作や品質などの面で特に満足しています。

大阪夕陽丘学園短期大学様 志摩市様

公共

専用機で高品質なイベント中継

包括連携協定を結び地方創生を推進

イベント配信

遠隔授業



イベント中継での活用、モバイル回線でも快適

遠隔授業については実験段階で段階的に実績を作り他大学や他自治体への展開を目指していく最中だが本学園80周年の記念式典において、LoopGateを用いて志摩市との中継を行った。志摩市庁舎内のアクセス回線とモバイル通信回線であるWiMAXを使ったが途切れることもなく快適に中継することができた。

株式会社スズケンジョイナス 様

特例子会社

ちょっとした連絡から合同朝礼まで

社内LAN回線ではなくモバイル回線で
拠点間の空間共有を実現。

常時接続

モバイル回線

マネジメント

- マネジメント課題の解決のために導入
 - ✓ 社長のデモ体験により検討がスムーズに
- 社内回線ではなくモバイル回線を採用
 - ✓ 工事不要で導入が簡単
 - ✓ ドコモのHR01を採用
- 拠点間のコミュニケーションが増加
 - ✓ ちょっとした連絡から合同朝礼まで

責任者の常駐が困難

本社（愛知県名古屋市中区）、名南物流センター（愛知県大府市）、そして名古屋市中東区に拠点ががあります。そのうち名南物流センターは**責任者の常駐が困難**な状況となり、マネジメントの観点で何か解決方法はないかと考えている中で、お隣オフィスが私たちの課題解決につながるのではないかと検討を始めました。マネジメントのこと以外にも、もともと拠点間に社内連携の課題は存在していました。それこそコミュニケーション不足や、**本社以外の拠点では疎外感を感じやすい**などもありました。

社長とのデモ体験で検討がスムーズに！

社内にはマイクロソフトのTeamsのアカウントもありますから、「社内のパソコンを使えば構築できるんじゃないか？」とあの頃の社長は考えていたように思います。しかし、実際にデモンストレーションでお隣オフィスを目の当たりにして、パソコン（TeamsやZoomなど）と違って**会話もスムーズにできるうえに、同じ場所にいるように相手の雰囲気を感じられる**んだとわかりました。社長もデモを見た後は「これはいいですね」と言っていました。社長にデモで見てもらったことでシステム導入の理解が早まって、検討を進めるうえで大きなポイントとなりました。**実際に見てもらうのが一番良い**んだなって思いました。必要性や得られる効果がイメージできたんだと思います。



■会社情報

親会社である株式会社スズケンの「特例子会社」です。株式会社スズケンは医薬品卸売を中心に健康創造事業を推進されています。特例子会社とは、「障害者の雇用等の促進に関する法律」の規定に基づく「障害者雇用率制度」等の適用上、「親会社（スズケン）と同一法人として取り扱う」ことが認められた子会社」のことです。

琴参タクシー株式会社 様

道路旅客運送業

管理職とのコミュニケーションが劇的改善！

遠隔点呼での利用も検討
日常の些細なやり取りが生まれている

常時接続

管理職

遠隔点呼

- 拠点が離れていても近くにいると感じられる
 - ✓ 世間話もできるように
- やってみればこの価値がわかる
 - ✓ わざわざ電話かけるのとは違う
- 他愛も無い話をするかしないかが大きい
 - ✓ 日常の些細なやり取りが生まれている

経営者と管理職のコミュニケーションが希薄に

弊社はもともと河田タクシーというタクシー会社ですが、香川県の観音寺市が発祥で、一拠点で事業をしていました。その時点ではお隣オフィスは必要なかったのですが、平成21年に琴参タクシーを事業譲受譲渡、つまりM&Aで買い取って、そこから拠点が増えていったんです。丸亀市、高松市、坂出市と。そうすると、一拠点のときには管理職とは良く喋って、コミュニケーションはしっかり取れていたんですけど、拠点が増えるにつれて段々話す機会がなくなってきて、どうにかできないものかと思うようになったんです。私は殆ど丸亀市にいますから、**顔を合わせることもなくなってきて、挨拶さえもすることがなくなってきた**んですね。そんな訳で何とかならないのかって、ずっと解決策を探していたんです。

やってみればこの価値がわかる

最初2台を入れたんですが、Zoomとかと違って親近感がわいてきたという良かったので、それで3台4台5台と順次増やしていったんです。売上を生むものに対する経費ではないから、**最初はお金をかけるのは勿体ないという感覚もありました**。お隣オフィスが売上につながるとは考えていなかったんです。今では他の営業所、他の拠点の従業員とのコミュニケーションを考えた時に**それだけの効果や価値があるとわかります。売上を生むものだとわかります**。こればかりはやってみないとわからないことでした。令和4年5月に2台、9月に1台、そして12月に3台を追加しました。まだ入れて間もないですが、それでもまだまだ効果を高めていけると思っています。もっと「ええもん」になってくると思います。



■会社情報

香川県で最大級のタクシー事業者。60年以上香川に密着して営業する同社はタクシー・バス合わせて車両台数は200台以上。高松、坂出、丸亀、観音寺など香川県内の各地に営業拠点があり、貸切観光バスや路線バス、介護タクシー、運転手を派遣する請負等のサービスを提供。タクシー会社としては珍しく、グループに自動車整備工場も所有し自社での車検や3ヶ月点検も管理している。

株式会社ランドアート 様

製造卸売業

離れた営業所との一体化を目指して

これまでに社内で無かった
コミュニケーションが生まれた

常時接続

社内行事

雑談

- 新入社員の顔もすぐに覚えられる
 - ✓ 朝礼で皆の前で挨拶してもらえる
- 通信品質を保つために自動調整される
 - ✓ 音声優先され安定している
- 営業所を閉める必要がなくなった
 - ✓ 全社行事の時に移動が無くなり効率的に。

弊社は鹿児島に本社と自社倉庫、それから広島と大阪にそれぞれ営業拠点があります。しかし、営業所に行く機会がなかなか少なくて。社長や営業部長、営業所の所長は行き来することはあるのですが…。やはり本社や営業所を来るのは特定の人だけであって、他のスタッフはそれこそ決起大会や創立記念日といった年の行事で1・2回集まるくらいでしたね。そのため、営業所スタッフと顔を見て話せるのも1・2回程度。人によってはタイミングが合わなければしばらく会話する機会も無いかもしれません。弊社代表もコロナ禍が始まる前から離れた営業所とリモート会議システムをつかってオンラインで「常時接続」することを考えていました。やはり、本社と営業所間のコミュニケーションをもっと深くしたいという意向がずっとあったようです。イメージとして持っていたのは、**離れた事務所に隣にいるような感覚**。営業所スタッフからも、そのような環境づくりをしたいという声を聞いていたので、私も展示会などで常時接続が実現できそうな製品を色々見て回っていました。

常時接続を導入してからは、ごく自然に今までの電話のような感じで扱ってますね。本社からだけでなく、広島や大阪からでも画面で何か見せたり、気づいた時に声を掛けたりしています。鹿児島の本社では朝は必ず掃除をするのですが、その時にカメラの前とか通っていくんですけど、大阪営業所の方がこっち見ていると手を振ったりとか、そこでポチっとして**話しかけて簡単なコミュニケーションが突然始まるようになった**のですよね。電話だとわざわざそんなことはしないので、それが大阪だったり広島だったりお互いを見ながら大阪に話しかければ広島も混ざってきたりして、本当に日常的な会話ってというのが始まります。まるで近くに部屋や事務所があるようなイメージです。うちの社長がカメラに「おーい！」って言ってみんなが反応したりとか。



■会社情報

測量・記録・環境・気象・試験機・安全用品などを製造卸販売される株式会社ランドアート様。自社のハイビスカス製品をはじめとした多くの製品を取り扱い、本社拠点の鹿児島から大阪・広島に営業拠点を置き、幅広く展開されています。

社会福祉法人自立支援協会 様

サービス業

常時接続で事務所の一体化を実現！

仕事や声掛けの「後回し」が減少
無料のWeb会議システムとは全然違う

常時接続

事務所を一体化

新人の自己紹介

- 相手の所在が一目瞭然
 - ✓ 簡単な会話はそのままできる
- 仕事や声掛けの「後回し」が減少
 - ✓ 「居るか、居ないか？」を考えなくて良い
- 聞き取りやすい音声
 - ✓ 無料のWeb会議システムとは全然違う

選定のポイント

- 1 パソコンを使ったシステムではなく
専用機であること

パソコンを使ったWeb会議システムというよりは、いわゆる専用機を使うシステムで検討しました。

- 2 職員みんなが使うものなので
簡単に使えること

職員みんなが使うものなので、専用機のリモコンでDVDデッキやテレビみたいに操作する方がとつきやすいのでは…と思いました。

離れた相手とのコミュニケーションがスムーズに

事務所同士を常時つなぐというのは、かなり良い効果が出ています。今までは、「今〇〇さんは居るかな？居ないかも？」と思いながら固定電話をかけていました。携帯にかけると、現場に出ているときは支援中で電話に出られない時もあるので、まずは固定電話にかけていました。今は、画面上で事務所に居るのかが分かるので、簡単な話はマイクをオンにして、「〇〇さん～」って呼んで、簡単な会話はそのままできています。もし、他のスタッフには聞こえなくてもいい込み入った話の場合は、同じく画面上で相手の様子を確認して、携帯にかけるようになりました。画面で見ると、相手の所在が一目瞭然なので、もう一つの事務所のスタッフと、話がスムーズにできるようになったのは、とても効率的で良かったと思っています。スタッフの一体感も出ています！



■会社情報

自立支援協会は、すべての障害者が地域で自立し社会参加できる支援体制を目指して、堺市内の4つの団体によって2000年8月に設立された社会福祉法人です。現在、障害者ケアホームやヘルパー派遣、放課後等デイサービスなどの各事業の他、障害者からのさまざまな相談を受けたり、行政との協議などに取り組んでいます。

大事な会議はLoopGateで実施

講師を招いて介護の現場と勉強会
エリア単位での報告会議

テレビ会議

勉強会

- Zoomと併用して用途によって使い分け
 - ✓ リスクマネジメント委員会など重要な会議で利用
- 土日祝や正月の利用でもサポート窓口があるので安心
 - ✓ 新年の大事な会議は早朝から利用
- ミキサーとの接続で音声を共有



50拠点以上での接続

現場を管理しているマネージャーとのちょっとしたミーティングや会議で使っています。職員の話は現場マネージャーが直接対面で話をしっかりと聞いて吸い上げて、その内容をマネージャーから共有してもらっています。主な使い方としては、マンツーマンというよりはエリア単位（たとえば東北エリアなど）の報告会議といった場面でLoopGateを複数地点つないで使っています。LoopGateがあるからといってリモートに限定することなく、時には必要に応じて本部からスタッフを現地に派遣して、直接対面で話を聞くこともあります。



■会社情報

福岡県北九州市をはじめ全国にて有料老人ホームやデイサービスセンターなどの介護施設を展開されています。
「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」を基本理念に、疾病予防の分野やIoT技術を駆使した介護職員の行動分析など、ご入居者様に寄り添ったサービスを創造、実践されています。

高齢者の孤立化と虚弱化の防止

テレビ電話交流や健康相談

高齢者の孤立化防止

- 高齢者の方でも簡単に扱える
 - ✓ 大画面で大きく映ることが好評
- 70代の方々が自主的に利用した事例も
 - ✓ 画期的な行動変容
- 自宅に伺うことなく順番に問診や聞き取りができる

岩手県協議会とは

元スタートが「リハビリテーション専門職である作業療法士会」が核となっていますので、理学療法士や言語聴覚士のリハビリテーション専門職の方にも参画していただいています。加えて「介護ロボットの開発」という目的がありますので、介護現場の団体の方にも参加いただき、更に大学研究の中で高齢者の見守り活動に取り組まれている先生にも参画いただいております。

また、「ニーズ側」として高齢者に直接関わる市町村の地域包括支援センターの保健師の方々、「シーズ側」としてロボットを開発する側である大学の理工学部の先生にも参画いただいております。

その他、医師として生体情報（血圧など）のデータ活用で遠隔医療に関わっておられる先生や、実際に事業化を行う上での助言や支援を頂くために岩手県の方々にも参画いただいております。

総勢20名の委員で形成された組織です。

現在、日本では高齢化が大きな問題となっており、厚生労働省は地域包括ケアシステムを推進しています。その中で、高齢者の方々同士が集まって、話したり体操をしたり、高齢者の活動と参加を促進する「介護予防事業」を全国の市町村が推し進めています。しかし、都市部にお住まいの高齢者は集まりやすい環境にありますが、山間部や降雪など気候的に集まることが困難な地域の方もいらっしゃいます。そういった高齢者の方々には外に出ることも難しく孤立化してしまうことが問題となっています。

実際にテレビ会議LoopGateを使って、今回の取り組みの実証実験を行いました。具体的には、委員の研究フィールドで協力していただいていた複数の高齢者グループにお願いし、LoopGateを使ってリモートで集う実証実験を11月・12月に実施したいという事で、実証実験に参加して下さる方を募集しました。そうしてご了承いただいた方々に週に2~3回集まっていたいただき、会話や体操レクリエーションをするなど、実際にLoopGateを使って試していただき、高齢者の方々に使用可能な機器かどうかの検証を行ったのです。



■実験の概要

厚生労働省の『令和2年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業』におけるニーズ・シーズ連携協調協議会として、岩手県協議会にてLoopGateを活用した高齢者の孤立化防止と参加の促進の実証実験を実施。